

I 現状

1 小中学校の現状

(1) 児童生徒数の推移

- ・小学校の児童数は、図1に示すように、昭和55年の4,772人をピークに減少傾向を示していたが、平成2年以降再び増加に転じてその傾向を持続しており、令和2年には6,123人となっており、令和7年には6,176人でピークを迎え、その後減少に転じると予想される。
- ・中学校の生徒数は、図1に示すように、小学校より5年遅れで同じ傾向を示しており、昭和60年の2,496人をピークに減少傾向を示していたが、平成7年以降再び増加に転じてその傾向を持続しており、令和2年には2,657人となっており、児童数がピークを迎える令和7年には2,922人となり、その後は横ばいで推移すると予想される。

『市内学区児童生徒推計資料』, R6.4より

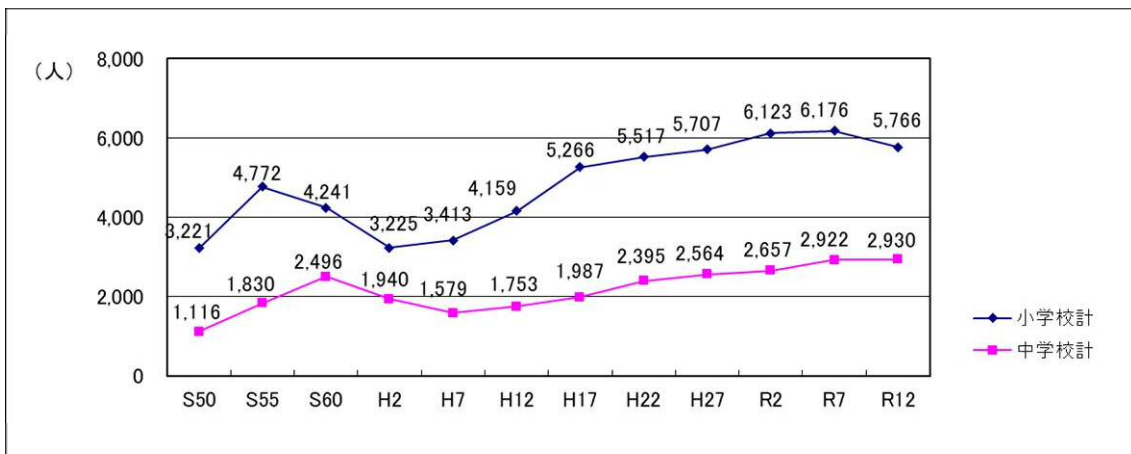


図1 市全体の児童生徒数の推移

(2) 学級数の推移

- ・小学校の学級数は、図2に示すように、平成2年度以降増加傾向を持続しており、児童数がピークを迎える令和7年度まで増加し、その後減少に転じると予想される。
- ・中学校の学級数は、図2に示すように、小学校より遅れて増加傾向を示し、令和7年度まで増加し、その後横ばいとなると予想される。（*学級数に特別支援学級の数は含まない）

『市内学区児童生徒推計資料』, R6.4より

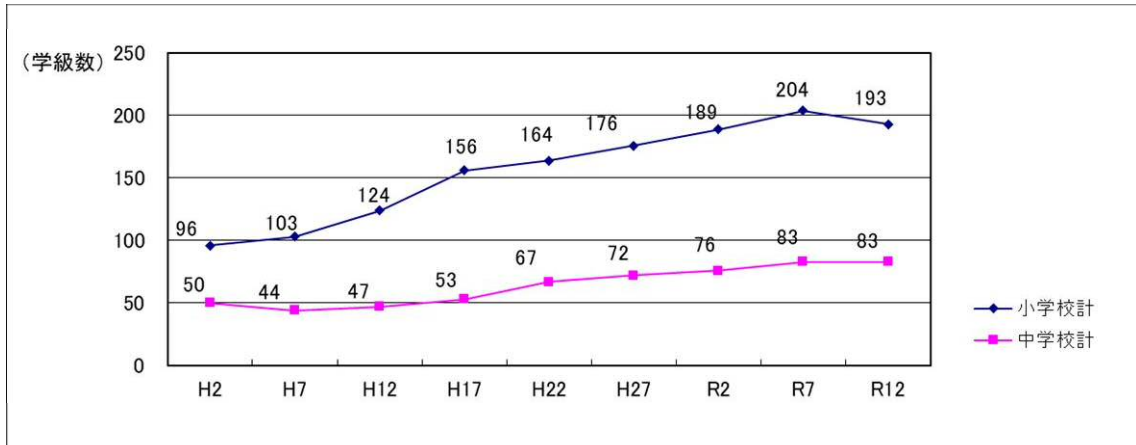


図2 市全体の学級数の推移

(3) 通学区域

通学区域については、「就学すべき小学校又は中学校を指定しなければならない」(学校教育法施行令第5条2項)と規定されており、日進市においても、この規定に基づき、「日進市立小中学校通学区域に関する規則」において、あらかじめ学校毎に通学区域を設定し、就学する学校を指定している。

また、通学距離については、「小学校が概ね4km以内、中学校が概ね6km以内」とされている(義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条)が、日進市では、独自の基準として「小学校は3km以内、中学校は5km以内」を一定の基準としている。

現在、日進市の小学校の児童の大半は徒歩で通学しており、通学距離は概ね2.5km以内であるが、米野木町三ヶ峯地区では、4kmを超えており、公共交通機関(バス)を利用している児童がいる。

中学校の生徒は、徒歩及び自転車で通学しており、通学距離は概ね5km以内であり、通学距離や道路整備状況等により自転車通学を認めている(表1参照)。

表1 市内中学校の通学状況

日進中学校	原則徒歩通学
日進西中学校	原則徒歩通学
日進東中学校	一部自転車通学あり 自転車通学区域(東小学区:東名高速道路以北、相野山小学区:全域、梨の木小学区:栄一丁目・二丁目)
日進北中学校	原則徒歩通学

(*令和6年度時点)